

サムシングホールディングス株式会社 (証券コード:1408) 2015年12月期 本決算説明会



- ◆ 会社概要
- ◆ 沿革(事業内容)
- ◆ 2015年12月期 決算内容
- ◆ 2016年12月期計画
- ◆ 2013～2015年中期経営計画検証
- ◆ 参考情報



会社概要

◆ 5つの事業セグメント

地盤改良事業、保証事業、地盤システム事業、海外事業
その他事業

◆ 地盤調査、改良を主業とする会社では唯一の上場企業

◆ 2000年設立

(前身の(株)サムシングは1997年設立)

◆ グループ会社数は10社

◆ 従業員数 単体37名、連結371名



SOME THING GROUP サムシングホールディングス(株)

●事業子会社の経営管理・企画・財務 ●新規事業開発

地盤改良事業



(株)サムシング

設立：1997年
資本金：50,000千円

事業内容

戸建住宅から中・大型物件を対象とした地盤調査・地盤改良工事、沈下修正工事

(株)サムシング四国

設立：2009年
資本金：13,000千円
(23%出資)

事業内容

四国地方での地盤調査・改良工事

保証事業



(株)GIR

設立：2000年
資本金：100,000千円

事業内容

地盤保証「THE LAND」や住宅完成保証「住まいるガード」の提供

Something Re.Co.,Ltd.

設立：2001年
資本金：13,000千円

事業内容

キャプティブ事業
(再保険事業)

地盤システム事業



ジオサイン(株)

設立：2008年
資本金：57,500千円

事業内容

独自開発の地盤調査システム(G-Web System)や地盤調査機のレンタル・販売

海外事業

SOMETHING HOLDINGS
ASIA PTE. LTD.

設立：2013年
資本金：350,000US\$

事業内容

東南アジア子会社への投資、及び経営管理

SOMETHING VIETNAM
CO.,LTD.

設立：2013年
資本金：102,205US\$

事業内容

ベトナム国における地盤調査・地盤改良工事

(注2)NIHON PANEL
CO.,LTD.

設立：2014年
資本金：270,952US\$
(51%出資)

事業内容

住宅建材の製造・販売

その他事業



(株)住まいる検査

設立：2008年
資本金：5,000千円

事業内容

新築住宅・中古住宅の検査業務



(株)E-ma

設立：2013年
資本金：10,000千円

事業内容

外構工事

(注1)2014年12月期決算短信より、海外事業セグメントを追加しております。

(注2)2016年2月15日付「当社連結孫会社NIHON PANEL CO.,LTD.の清算手続き開始の件」にて開示いたしましたとおり、取締役会において、当社連結孫会社NIHON PANEL CO.,LTD.の清算手続き開始を決定いたしました。

地盤事業を中心とした事業展開・技術開発による
イノベーションにより、価値創造事業グループを目指す

地盤の技術力

多くの工法
を開発



技術研修を
頻繁に実施

ITシステム活用

GPS・タイムス
タンプによる
情報の透明化



クラウドを用い
て地盤データ
を保管

機動的な組織運営

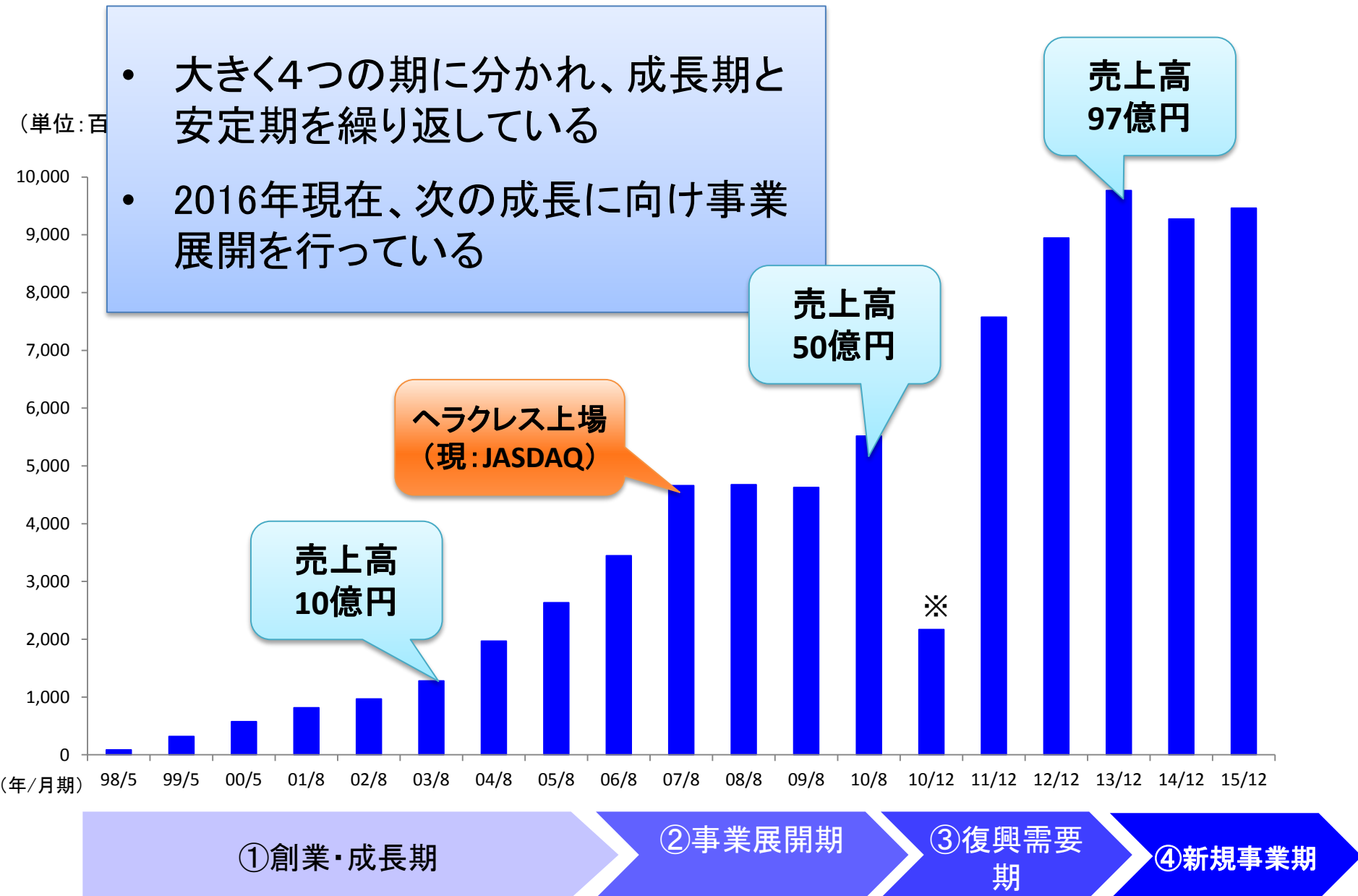
積極的な
事業展開



人材登用



沿革 (事業内容)



※2010年12月期に決算期変更を行っております。

①創業・成長期

- 地盤業界の透明化を目的に(株)サムシング創業
- 持株会社サムシングホールディングス(株)設立
- 保証事業の(株)GIR設立



①創業・成長期

②事業展開期

③復興需要期

④新規事業期

(年/月期)

◆ 地盤調査の理念

技術力を武器に地盤の見える化を推進

- 土を細かく調べ、適切な地盤補強を提案
- 学会や大学との連携・共同開発を行い、知識に裏付けされた地盤技術の強化

◆ サムシングの強み

- ITシステムによる地盤調査の透明化



地盤調査システム「G-Web System」の開発

- GPS、タイムスタンプ、クラウドサーバーを活用し、調査データの透明性・信頼性を向上
- 2016年現在、地盤システムのニーズが高まっている



◆ 地盤改良の理念

地盤事故「0(ゼロ)」を目指す

- 地盤保証ありきではなく、事故を起こさないことを重要視

◆ サムシングの強み

- 施工管理装置により、地盤改良の工事深度・改良杭の長さ、セメントの状況などをデータ化
- 技術研修に注力し、設計人員を強化
- 研究開発に力を入れ、数多くの工法を持つ



擁壁など、難易度の高い地盤調査・改良が可能な地盤のプロフェッショナル集団



◆ 地盤保証とは？

- 万が一地盤沈下等が起きた場合、保証を行う
- 当社グループが業界で初めて地盤保証を開発し、販売
- 既存の法律（瑕疵担保履行法）では地盤が原因の事故は補償されないため、地盤保証が必要となる

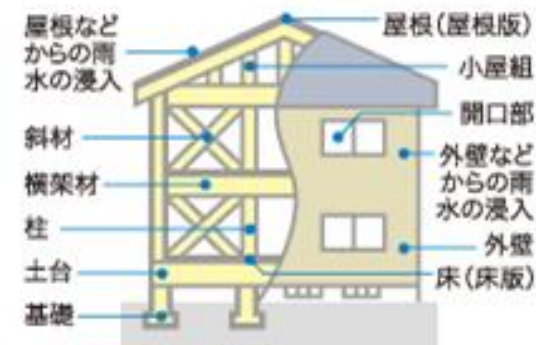
◆ サムシングの強み

- 大手損害保険会社が引き受け保険会社
- 液状化保証・30年保証など充実したラインナップ
- 累計6万棟以上の実績

瑕疵担保責任保険がカバーする範囲

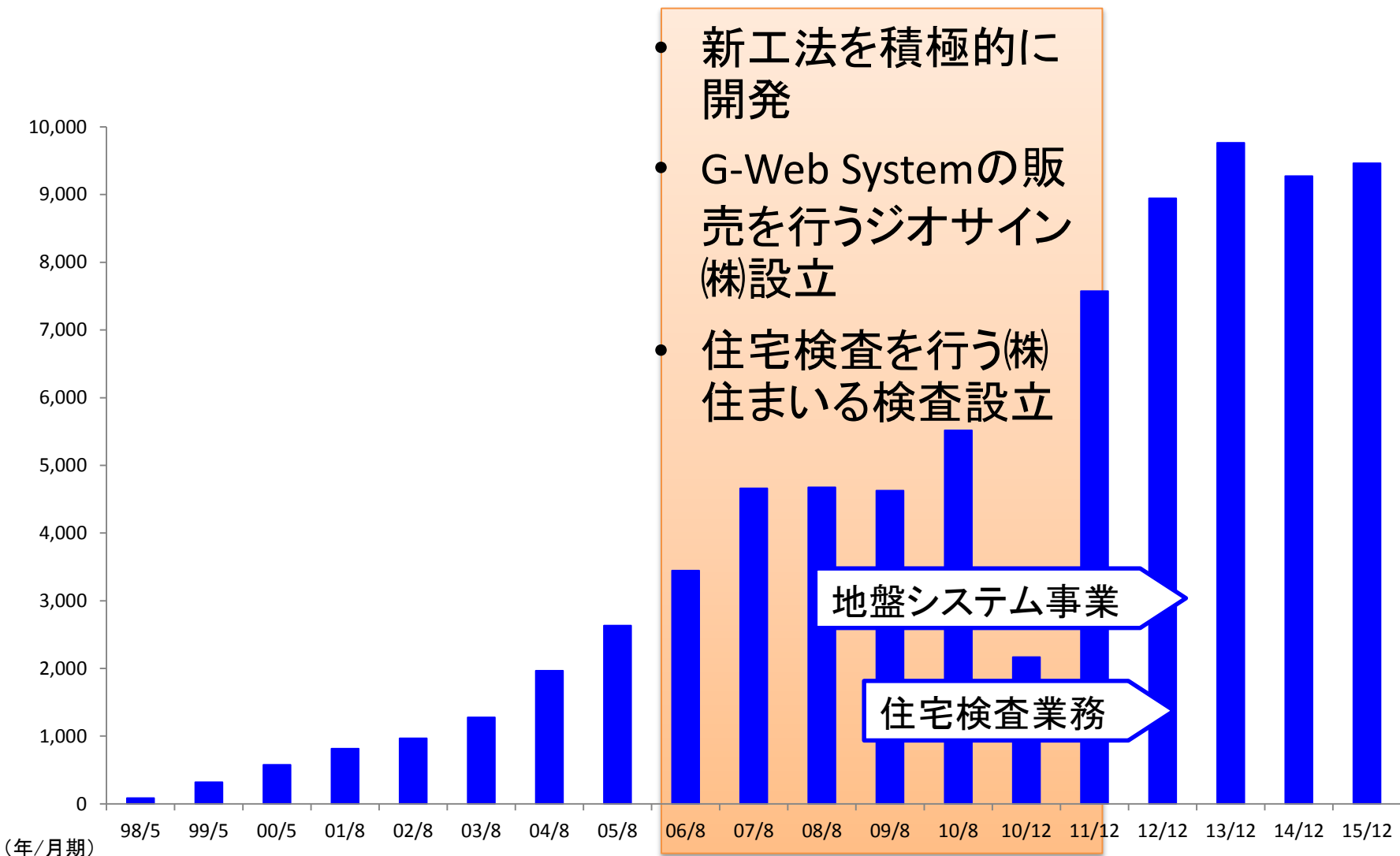
木造

在来軸組工法の戸建住宅の例



2階建ての場合の骨組み
(小屋組、軸組、床組)等の構成

②事業展開期



- 新工法を積極的に開発
- G-Web Systemの販売を行うジオサイン(株)設立
- 住宅検査を行う(株)住まいる検査設立

地盤システム事業

住宅検査業務

①創業・成長期

②事業展開期

③復興需要期

④新規事業期

NSVコラム工法 (2008年)

攪拌翼の上面からセメントを吐出する工法
建設技術審査証明(BCJ-審査証明-149)

特許
第4072968号
取得



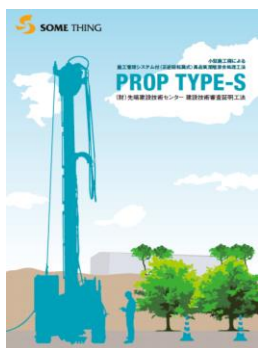
HITSコラム工法 (2008年)

経済的で高品質な柱状改良工法
建築技術性能証明(GBRC性能証明 第08-03号)



PROP TYPE-S (2010年)

地盤内に直径1,000mmの柱状改良体を築造する工法
財団法人先端建築技術センター技術審査証明
(技審証第2201号)



DM(ダブルメタル)工法 (2010年)

施工性に優れており、工期が短く、ローコストな工法
建築技術性能証明(GBRC性能証明 第10-01号)



1. 地盤システム事業の立ち上げ

- 地盤システム「G-web System」の販売を行うジオサイン株式会社を設立
- 業界全体の地盤データ透明化を目的とする

2. 住宅検査業務の立ち上げ

- 新築、既存住宅の検査を行う株式会社住まいる検査を設立
- 全国の建築士と提携し、住宅検査を行うネットワークを確立

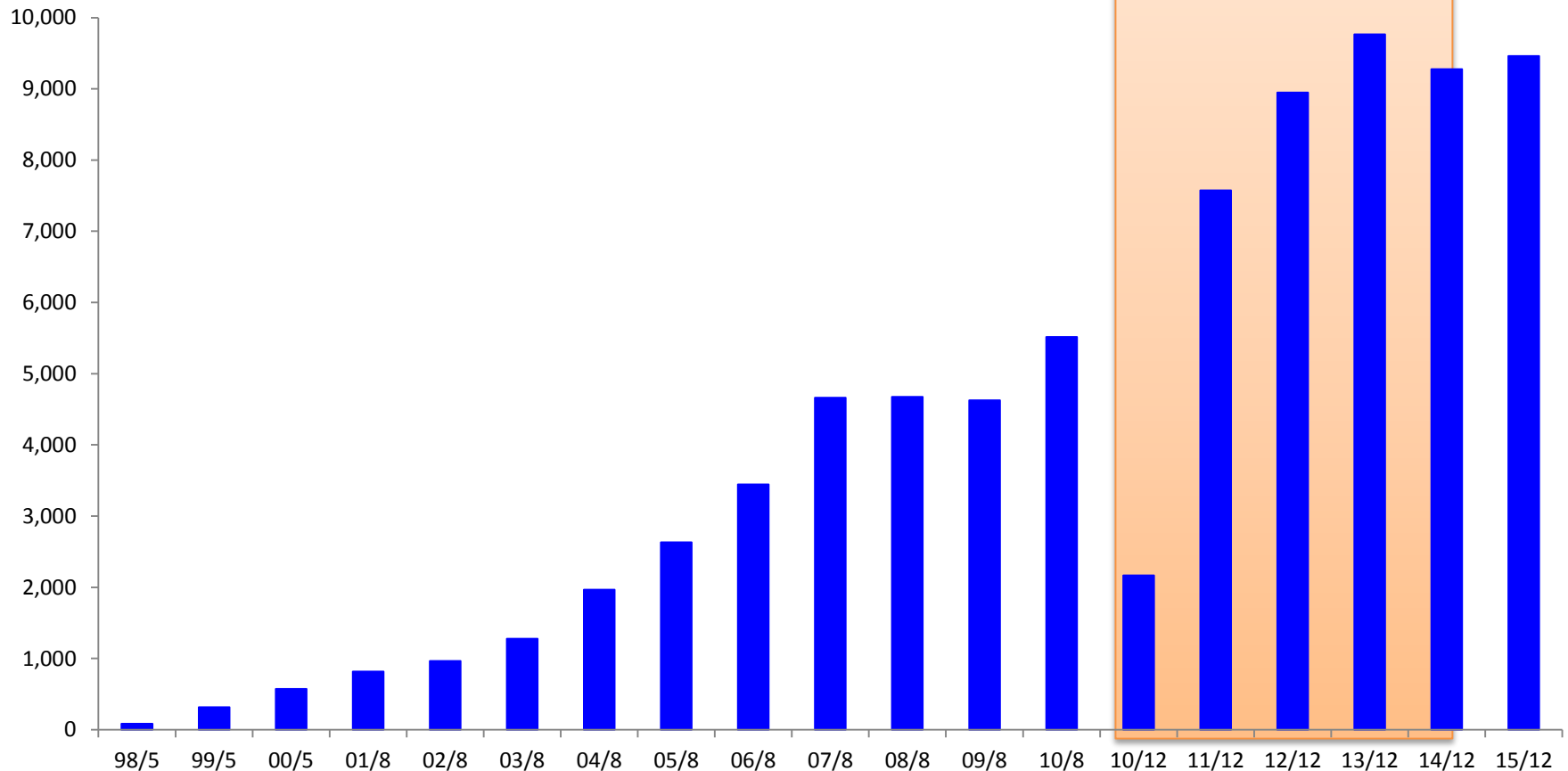
3. 住宅完成保証の開発・販売開始

- 万が一、建築途中に工務店が倒産した場合を想定
- 提携のバックアップビルダーが建築を引き継ぎ、工事停滞を防ぐ
- 建築資金を預かり工務店に出来高で支払うことにより、2重払いを防止

ジオサイン株式会社、住宅完成保証ともに、
2016年現在安定した収益源へと成長

③復興需要期

- 復興需要の取り込み
- 液状化対策のため新工法を開発



①創業・成長期

②事業展開期

③復興需要期

④新規事業期

◆ 2011年 東日本大震災

- 地盤への関心の高まり
- 東北地方での復興需要
- 関東地方での液状化問題

◆ サムシングの対応

- 液状化対策の地盤改良の工法開発
- 液状化に対応する地盤保証の拡販
- 液状化検討が可能な地盤調査機「地盤王ホリ・ススム」の開発
 - 精度の高い液状化判定
 - 土質・水位を確認可能
 - 機械化による低コスト化の実現

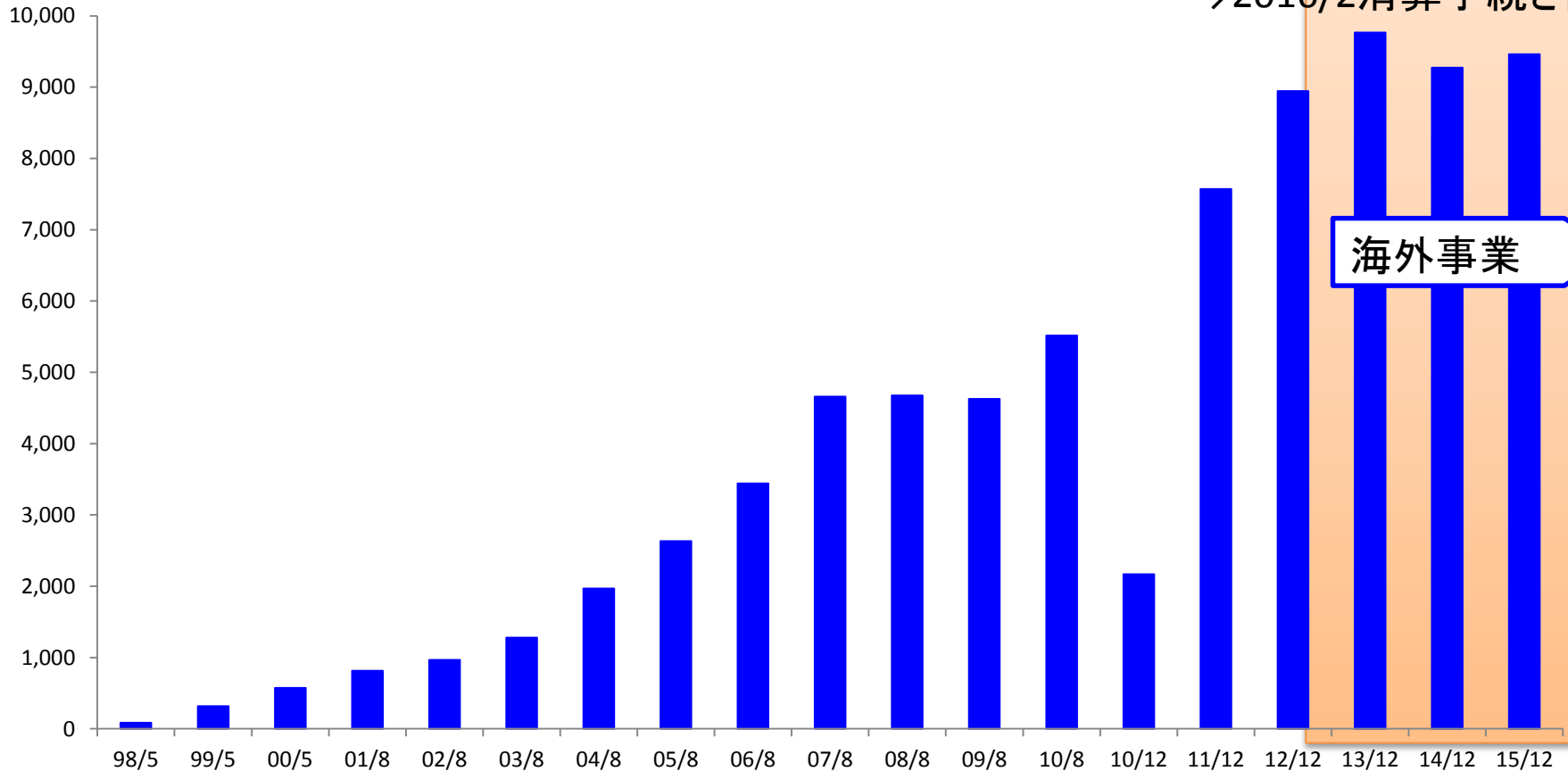
地盤王ホリ・ススム

特許
第5021104号
取得



沿革 ④新規事業期

- SOMETHING HOLDINGS ASIAを設立
- SOMETHING VIETNAMを設立
- NIHON PANELを設立
→2016/2清算手続き開始



海外事業

①創業・成長期

②事業展開期

③復興需要期

④新規事業期

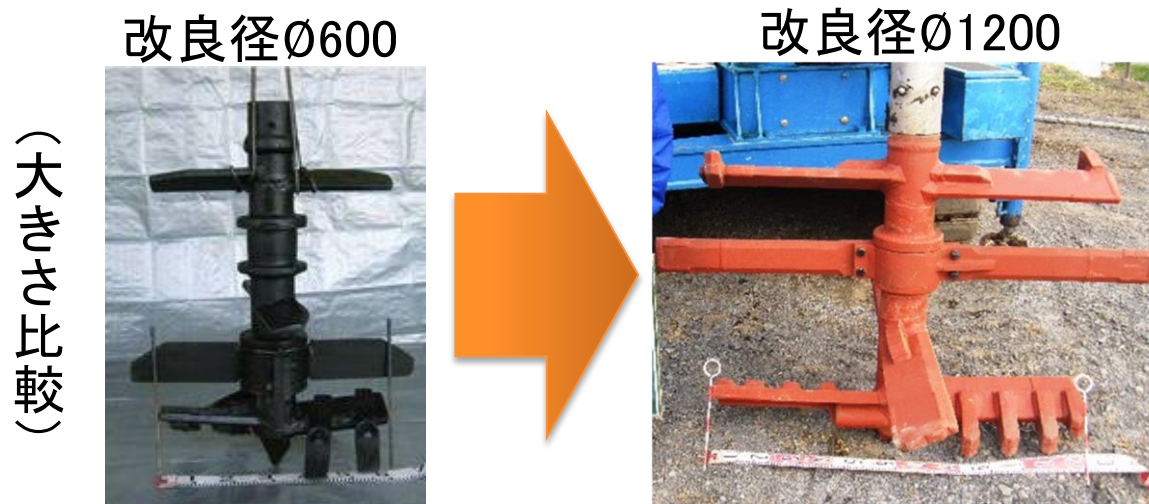
◆背景

住宅着工戸数に影響されにくい体質へ

◆強み

新工法の開発により、従来の地盤改良機を使用しながら非住宅建築物の工事が可能

➤ コラムZ工法＝改良軸の直径が従来の2倍



1. WPC(ウォールプレキャストコンクリート)の販売

- WPCの販売をベトナムで行うSOMETHING VIETNAM CO.,LTD.を設立
- 日本の建材メーカーと提携し、コンクリートパネルを販売

2. GRC(ガラス繊維強化コンクリート)の製造・販売

- GRCの製造をベトナムで行うNIHON PANEL CO.,LTD.を設立
- 日本の建材メーカーと提携し、コンクリートパネルを製造
- 今後の投資回収、採算性確保が困難と判断し、事業撤退を決定(2016年2月)

3. 地盤調査・改良工事

- ベトナム、アンジャン省案件の試験施工を実施
- 河川堤防の地盤改良工事等を予定

パネル住宅の施工風景





2015年本決算内容

1. 平成27年12月期 通期（平成27年1月1日～12月31日）

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成27年11月13日発表)	9,624	108	90	△194	△60.32
今回発表予想(B)	9,461	22	△14	△327	△101.32
増減額(B-A)	△162	△86	△104	△132	—
増減率	△1.7%	△79.5%	—	—	—

2. 連結業績予想数値の修正の理由

(1) 平成27年12月期累計期間（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

営業利益・経常利益に付きましては、地盤改良事業における材料費・労務費・外注費等の上昇による粗利率の低下、また、当期純利益に付きましては下記にてご説明します特別損失が発生したため、前回（平成27年11月13日）発表した予想数値を下回る見込みであります。

(2) 平成27年12月期累計期間（平成27年1月1日～平成27年12月31日）特別損失の計上について

平成27年8月11日付「平成27年12月期第2四半期累計期間及び通期の連結予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ」にて説明致しました地盤の瑕疵補修工事に付きまして、特別損失が平成27年11月13日発表以降17百万円増加し、最終的に特別損失を約245百万円計上致しました。

そして、海外事業に於けますGRC(ガラス繊維強化コンクリート板)建材の製造・販売事業の撤退を決定し、減損処理並びに引当金に係る特別損失を68百万円計上致しました。

【業績要因①】

瑕疵補修工事に関する特別損失245百万円、海外孫会社清算手続き開始に関する特別損失68百万円が大きく影響し、特別損失を317百万円計上

(単位:百万円)	2013年度		2014年度		2015年度		
	実績	利益率	実績	利益率	実績	利益率	前年比
売上高	9,766		9,275		9,461		2.0%
売上原価	7,358	75.3%	6,869	74.1%	7,091	74.9%	3.2%
売上総利益	2,408	24.7%	2,405	25.9%	2,370	25.1%	△1.5%
販管費	2,087	21.4%	2,240	24.2%	2,348	24.8%	4.8%
営業利益	320	3.3%	164	1.8%	22	0.2%	△86.5%
経常利益	295	3.0%	187	2.0%	△14	△0.2%	—
当期純利益	152	1.6%	48	0.5%	△327	△3.5%	—

◆ 特別損失について

造成地にて請負いました地盤改良工事に於きまして、固化不良による地盤の瑕疵補修工事が発生いたしました。

- 固化不良の原因把握に長期間を要し、施工範囲が広く、建物規模が大きかったことが特別損失を大きくした理由であります。
- 今年(今回)のみに限った一過性のものであると考えております。

◆ 対策

品質管理体制を強化し、再発防止策を立てております。

- 品質強化プロジェクトを立ち上げ、外部コンサルタントを招いて活動を行っております。
- 株式会社サムシングに事業部から独立した組織として品質保証部を新たに設けております。

セグメント別業績【業績要因②、③】

【業績要因②】

作業・営業人員の機会損失が発生し、売上総利益率が前期比悪化

【業績要因③】

海外のGRC事業において、販売価格が伸びなかったため売上総利益率が改善せず、収益を圧迫

(単位:百万円)		2013年		2014年		2015年		
	セグメント	実績	利益率	実績	利益率	実績	利益率	前年比
売上高	地盤改良	9,331		8,815		8,991		2.0%
	保証	201		174		164		△5.6%
	地盤システム	129		136		128		△5.6%
	海外	—		34		92		164.5%
	その他	103		114		84		△25.6%
セグメント損益	地盤改良	156	1.7%	142	1.6%	59	0.7%	△58.2%
	保証	134	66.8%	107	61.7%	122	74.7%	14.3%
	地盤システム	35	27.3%	30	22.2%	14	11.3%	△52.2%
	海外	—	—	△100	△287.0%	△76	△83.0%	—
	その他	△5	△4.9%	△3	△3.3%	△19	△22.6%	—

◆ 作業・営業人員の機会損失

- 瑕疵補修工事への対応のため、人員の機会損失が起きてしまった
- 売上高の予算比未達となり、売上総利益率が低下し、人件費・設備投資等の固定費上昇を吸収しきれなかった

◆ GRC事業

- 現地競合他社との価格競争が激しく、販売価格が伸びなかった
- そのため売上原価・販管費を吸収できず、海外事業の業績を圧迫している

◆ WPC事業

- 売上は徐々に出ているが、予算比未達
- 2017年以降大口案件を受注見込み

◆ 地盤調査・改良工事

- 地盤調査は少しずつ実績を積み上げているものの、予算比未達
- 地盤改良はアンジャン省(日本の県にあたる)の案件に関する試験施工の良好な結果が出たため、今後の受注につながる様、提案を行っている段階

◆ 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (平成27年11月13日公表)	前期実績 (平成26年12月期)
基準日	平成27年12月31日	同左	平成26年12月31日
1株当たり配当金	0円00銭	3円50銭	3円50銭
配当金の総額	—	11百万円	11百万円
効力発生日	—	平成28年3月26日	平成27年3月26日
配当原資	—	利益剰余金	利益剰余金

◆ 理由

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営課題の一つとして認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、期末配当として年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としてまいりました。

しかしながら、海外事業におけるGRC(ガラス繊維強化コンクリート板)建材の製造・販売撤退に伴う損失の計上により個別業績の当期純損失が179百万円となる見通しとなったため、誠に遺憾ながら平成27年12月期の配当につきましては、見送ることといたしました。

以上

28

◆ 清算する会社の概要

- (1) 商号 NIHON PANEL CO.,LTD.
- (2) 所在地 ベトナム社会主義共和国
- (3) 設立年月日 平成25年10月1日
- (4) 資本金 VND5,689,999,000
- (5) 従業員数 47人
- (6) 大株主及び持ち株比率 SOMETHING HOLDINGS ASIA PTE.LTD. 51%

(7) 直近の業績

(2015年12月期)

(単位:千円)

売上高	43,920	総資産	119,403
営業利益	△38,355	純資産	△44,855
経常利益	△47,316		
当期純利益	△47,316		

◆ 連結業績予想数値の修正の理由

当社は、平成25年2月14日公表の中期経営計画『GLOCAL 2015』(2013/12期～2015/12期)の実現に向けて中長期的なテーマである海外における事業領域拡大のため、WPC(プレキャストコンクリートパネル)建材の製造販売事業・GRC(ガラス繊維強化コンクリート板)建材の製造販売事業・地盤調査改良事業を進めてまいりました。

結果、GRC事業につきましては費用対効果も小さいことから、今後、投資回収及び採算性を確保することが困難であるとの判断に至り、GRC事業主体でありますNIHON PANEL CO.,LTD.の清算を開始するに至りました。

◆ 役員報酬減額の内容

代表取締役	前 俊守	役員月額報酬の50%
常務取締役	笠原 篤	役員月額報酬の30%
常務取締役	青木 宏	役員月額報酬の30%

(社外取締役は除く)

◆ 対象期間

平成27年8月より5カ月間

◆ 減額の理由

平成27年12月期第2四半期の連結業績結果を受け、その経営上の責任を明確にするため、役員報酬を減額することといたしました。

今後は、当社グループ一丸となって収益回復に向け邁進していく所存でございます。

今後とも株主の皆様をはじめとする関係各位のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

A large, semi-transparent orange 'S' graphic that serves as a background for the title text.

2016年度計画

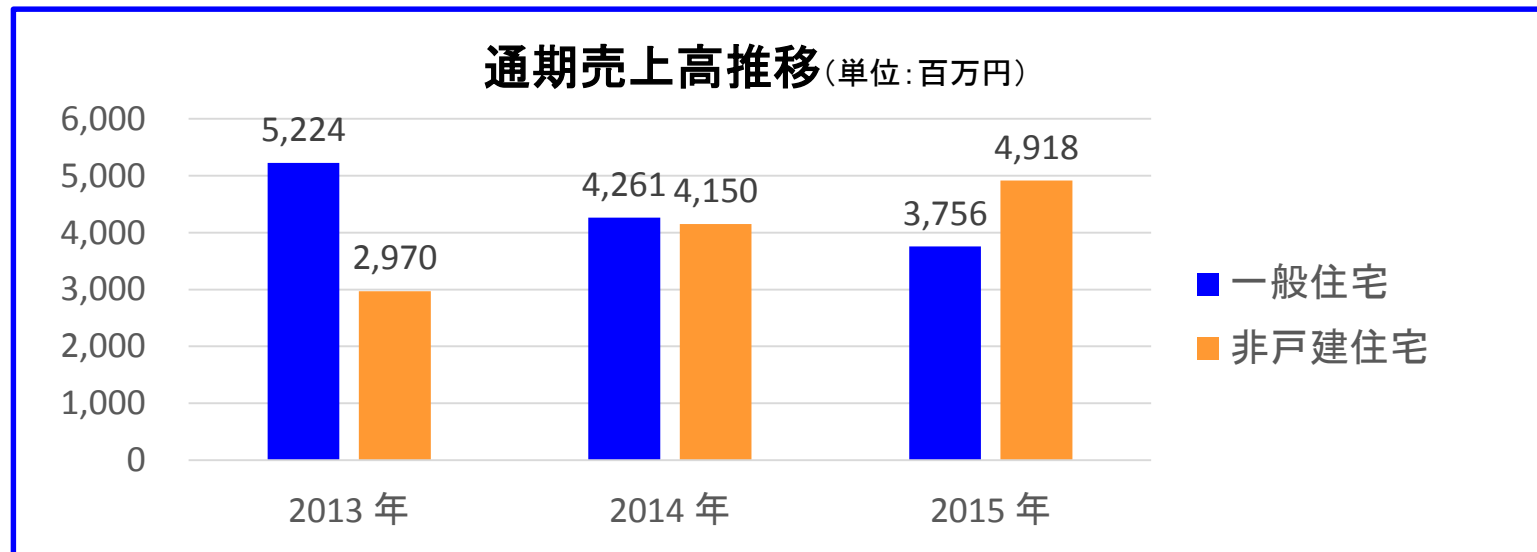
2016年12月期業績計画

(単位:百万円)	2015年度 (実績)	利益率	2016年度 (計画)	利益率	前年比
地盤改良事業	8,991		9,424		4.8%
保証事業	164		204		24.2%
地盤システム事業	128		155		20.7%
海外事業	92		219		137.9%
その他の事業	84		99		17.7%
売上合計	9,461		10,103		6.8%
地盤改良事業	2,237	24.9%	2,452	26.0%	9.6%
保証事業	118	71.8%	149	73.2%	26.5%
地盤システム事業	13	10.9%	13	8.9%	△1.1%
海外事業	△4	△4.5%	52	24.1%	—
その他の事業	42	50.0%	49	50.0%	17.8%
売上総利益合計	2,407	25.4%	2,718	26.9%	12.9%
営業利益	22	0.2%	112	1.1%	405.5%
経常利益	△14	△0.2%	83	0.8%	—
当期純利益	△327	△3.5%	48	0.5%	—

1. 品質強化を推進し、トラブル発生を抑制

- 品質管理委員会、品質保証部を中心とした体制構築

2. 非住宅物件への移行



3. 高付加価値サービスの拡販

- 液状化対策が可能な自然砕石を用いたエコジオ工法
- 機械式ボーリングマシン(地盤王ホリ・ススム)により液状化対策ニーズを取り込む

◆ 外部環境

- 地盤調査、地盤改良工事に対する透明化向上のニーズが高まっている

◆ 2016年12月期計画

- ニーズの高まりに応えられる体制整備
- 需要の高まりに併せ、大口顧客の獲得を目指す

採算が見込みにくいGRC事業から撤退し、 WPC事業・地盤事業に投資資源を集中

◆ 地盤改良事業

- ベトナム国アンジャン省とのプロジェクトを見込む
- 小規模の地盤改良工事の積み重ね

◆ WPC事業

- ベトナム国、及び東南アジアの他国のプロジェクトにも参加を検討

新法対応の雨水浸透・利用技術の開発

(背景) 水害により新法制定が進む

ボーリングマシンを
活用した埋設工法



ドレーン材を埋設することで
井戸や地下水排水が可能



1. 雨水の利用の推進に関する法律

2. 水循環基本法

- 政府と自治体は森林、河川、農地、都市施設などを整備

(強み) 地盤改良技術を応用可能

1. 地盤王 ホリ・ススム

2. 埋設管工法 (2014年3月特許取得)

- ドレーン材を地中に埋設可能
- 地表面の雨水を地中に浸透させる
- 地下水の汲み上げ

3. 擁壁の水抜き「DASSUI(ダッスイ)」

- 擁壁にドレーン材を打ち込み雨水の逃げ場を作ること、擁壁に掛かる負担を軽減



2013～2015年 中期経営計画検証

2013～2015年中期経営計画「GLOCAL2015」2013年2月開示

◆ 中期ビジョン

地盤改良事業を中心とした価値創造事業グループを目指す

- 労働集約型から知識集約型へ
- 住宅業界における付加価値サービスを創造
- グループのシナジーによる企業成長

◆ 中期テーマ

グローバル企業への成長

地域密着でお客様の要望に、お応えし、最先端の技術開発、グローバルな海外進出にて、グローバルとローカルを併せ持つ企業へ成長します。

セグメント	事業計画	検証結果
地盤改良事業	顧客ニーズに合わせたローコスト地盤改良工事の販売拡大	柱状改良工事は売上微増(2012年5,210百万円→2015年5,297百万円)
	液状化対策の営業活動を強化	地盤王ホリ・ススムの売上増加(2012年0円→2015年114百万円)
	非住宅建築物(小型商業用店舗、介護施設等)の成長市場への営業活動の強化	非住宅建築物の売上比率増加(2012年19.0%→2015年56.7%)
	独自開発及び共同開発工法の販売拡大	エコジオ工法の売上増加(2012年32百万円→2015年328百万円)
保証事業	販売網の強化⇒他社とのアライアンスを視野に入れた柔軟な販売戦略の推進	認定店数増加へ向けた取り組み
	認定店ネットワークの拡大	認定店数は微増(2012年87社→2015年103社)
地盤システム事業	地盤データシステム「G-Webシステム」の顧客層拡大	売上高は微増(2012年166百万円→2015年189百万円)
海外事業	海外事業及び新規事業によるグループシナジーの向上	海外事業として2013年以降GRC事業・WPC事業・地盤改良事業を開始したが、2016年2月採算を見込むことが困難なGRC事業から撤退を決定
その他事業	住宅検査受託業務の売上拡大⇒住宅瑕疵担保責任保険の現場検査シェアアップ	売上高は減少(2012年106百万円→2015年85百万円)

A large, light orange, stylized 'S' graphic that serves as a background for the main title text.

参考情報

2015年12月期 連結貸借対照表

- ◆ 特別損失が影響し当期純損失327百万円となり、純資産が減少
- ◆ 借入金が412百万円増加等し、負債合計は増加

(単位:百万円)	2013年 12月末	2014年 12月末	2015年 12月末	前年比 増減額
流動資産	3,857	3,873	4,153	280
固定資産	1,127	1,386	1,289	△97
資産合計	4,985	5,259	5,443	183
流動負債	2,687	2,724	3,324	599
固定負債	1,014	1,208	1,117	△90
負債合計	3,701	3,932	4,441	508
純資産合計	1,283	1,327	1,001	△325
負債純資産合計	4,985	5,259	5,443	183

2015年12月期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2013年 12月末	2014年 12月末	2015年 12月末
税金等調整前当期純利益	294	164	△331
減価償却費	244	323	363
売上債権減少額	△68	133	△3
仕入債務の増減額	129	△186	181
その他特別損失による現金増減	0	0	99
法人税等の支払額	△80	△187	△113
営業活動によるCF	535	296	143
定期預金の預入による支出	△6	△6	△106
固定資産の取得による支出	△137	△263	△182
投資活動によるCF	△146	△266	△296
短期借入による現金増減	54	137	272
長期借入による現金増減	79	157	140
ファイナンスリース債務の返済による支出	△120	△193	△225
財務活動によるCF	△95	66	183
現金及び現金同等物増加額	293	97	30
現金及び現金同等物期首残高	886	1,181	1,282
現金及び現金同等物期末残高	1,181	1,282	1,315

2013～2015年度中期経営計画の検証

(単位:百万円)	2013年12月期			2014年12月期			2015年12月期		
	計画	実績	差異%	計画	実績	差異%	計画	実績	差異%
地盤改良	10,180	9,331	△8.3	11,585	8,815	△23.9	12,900	8,991	△30.3
保証	187	201	7.7	195	174	△10.7	200	164	△17.8
地盤システム	118	129	10.1	153	136	△10.9	190	128	△32.3
その他	192	103	△45.9	247	149	△39.6	310	177	△42.8
売上高合計	10,677	9,766	△8.5	12,180	9,275	△23.8	13,600	9,461	△30.4
地盤改良	7,652	7,064	△7.7	8,630	6,544	△24.2	9,600	6,754	△29.6
保証	79	77	△2.4	83	51	△38.5	85	46	△45.5
地盤システム	129	154	18.7	154	169	10.3	183	114	△37.3
その他の	136	61	△54.7	172	104	△39.6	217	138	△36.0
売上原価合計	7,998	7,358	△8.0	9,040	6,869	△24.0	10,085	7,091	△29.7
地盤改良	2,527	2,266	△10.3	2,955	2,271	△23.1	3,300	2,237	△32.2
保証	107	123	15.2	112	123	9.9	115	118	2.7
地盤システム	△11	△24	-	△11	△33	-	7	13	99.7
その他	55	42	△24.5	74	44	△39.7	93	38	△58.8
売上総利益合計	2,679	2,408	△10.1	3,140	2,405	△23.4	3,515	2,370	△32.6
販管費	2,279	2,087	△8.4	2,600	2,240	△13.8	2,865	2,348	△18.0
営業利益	400	320	△19.9	540	164	△69.5	650	22	△96.6
経常利益	360	295	△18.0	500	187	△62.5	605	△14	-
当期純利益	177	152	△14.1	283	48	△82.9	343	△327	-

ご清聴ありがとうございました。

IR担当窓口

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略は、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。従いまして、将来の事業戦略・業績見通しに関する情報に全面的に依拠して、投資判断を決定することは避けるようお願いします。

また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

サムシングホールディングス株式会社

部署：管理本部

TEL：03-5665-0840

Mail：ir@sthd.co.jp